

経営比較分析表（令和5年度決算）

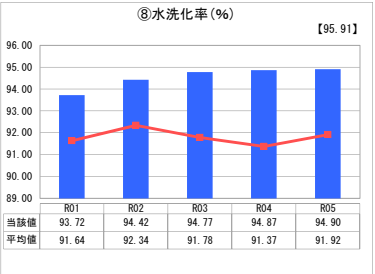
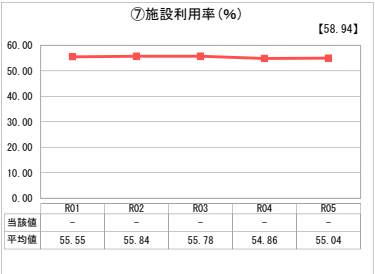
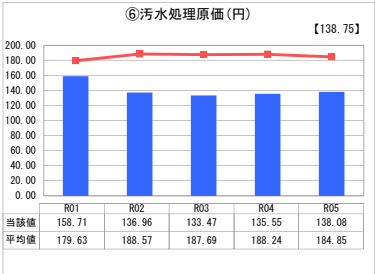
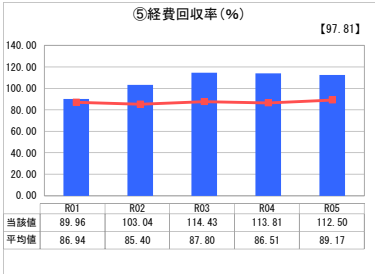
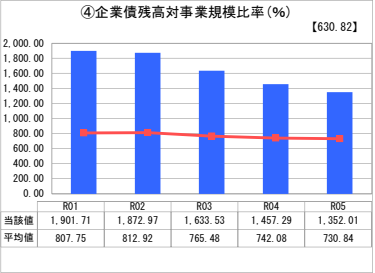
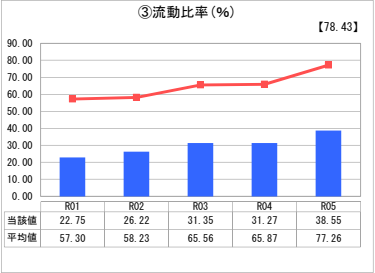
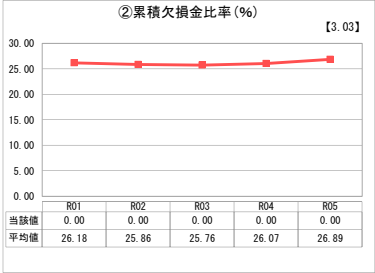
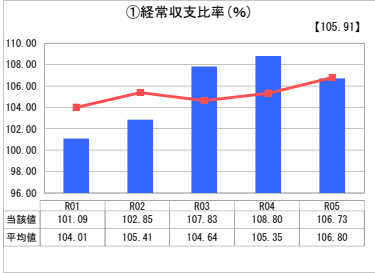
福井県 あわら市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	54.67	96.52	77.74	3,025

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,537	84.59	313.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
25,522	12.51	2,040.13

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は黒字となっているが、一般会計からの補助金等を繰入れているためである。昨年度よりも営業収益は増加しているが、営業費用も増加しているため、経常収支比率は減少している。

②累積欠損金は発生していない。

③企業債償還額が多くなっているため、流動比率が類似団体と比較すると低くなっている。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比較すると2倍以上となっている。過去の投資額が大きく、資本費平準化債も借入れていることが影響している。

⑤経費回収率は前年度と比較し減少した。これは、資産の除却が前年度よりも多くなったことに加え、汚水処理費が増加したためである。

⑥汚水処理原価は類似団体と比較すると低く推移しているが、今後九頭竜川流域下水道の汚水処理費用負担額の増加が見込まれるため、不明水を抑えて有収率を上げる対策が必要となる。

⑦施設利用率は、終末処理場等が無いため費用が発生していない。

⑧水洗化率は微増しているものの、ほぼ横ばいとなっており、今後も100%を目指して普及促進を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、毎年微増となっている。現在は耐用年数を超えたポンプ設備の更新を毎年行っている。

②管渠老朽化率は、法定耐用年数を超えた管渠がないため、発生していない。

③管渠改善率は、改善した管渠がないため、発生していない。

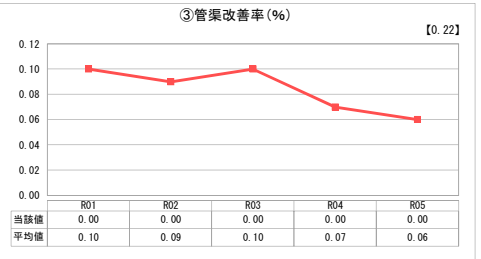
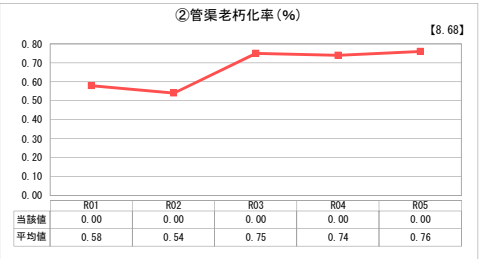
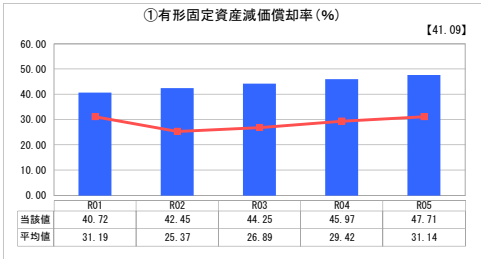
全体総括

今後も人口減少等により下水道使用量の減少が予想される一方、過去に集中的に整備した施設の耐用年数が近づいてきており、施設の更新に要する費用が増大するため、厳しい経営状況が続く見込みとなっている。

そのため、施設の点検をこまめにを行い状況を把握し、長寿命化に努めるとともに、適切な経営分析に基づき更新計画を立てる必要があると考える。また、必要に応じて使用料改定等を行うことで経営の安定化を図っていくことも必要である。

加えて、引き続き不明水対策や水洗化の普及促進も図っていく。

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。